

【合田農場 研修施設モニター & 落成式準備運営】

日程：2011年2月14日～16日

		ブログ等への掲載 (どちらか選択)
氏名	若奈	<input checked="" type="radio"/> OK ・ <input type="radio"/> NG
大学名	東京農業 大学 2 年	<input checked="" type="radio"/> OK ・ <input type="radio"/> NG
学部・学科	国際食糧情報学部 国際農業開発学科	<input checked="" type="radio"/> OK ・ <input type="radio"/> NG
写真の掲載		<input checked="" type="radio"/> OK ・ <input type="radio"/> NG
感想文の掲載		<input checked="" type="radio"/> OK ・ <input type="radio"/> NG

< アンケート >

1. 今回の研修の満足度

大変良かった ・ 良かった ・ 普通 ・ 不満 ・ 大変不満

その理由

清潔で温かみのある施設で農家さんをはじめ色々な人々と触れ合うことができ、とても有意義な研修になりました。そしてお米もびっくりするほどおいしかったです。作業をする時期にはもっとにぎやかになるのだらうなと思います。

2. 研修施設の使い心地

大変良かった ・ 良かった ・ 普通 ・ 不満 ・ 大変不満

その理由

これから合田さんや仲間の方々や色々な学生が利用していく中で、生活感や人の色がついてゆくのだからと思います。伺った時は試験段階のようでしたが、それでも部屋をはじめ、綺麗なバスルームや遊び心の詰まった屋根裏部屋まであり、くつろげる空間が出来上がっている感じがしました。

3. また同じような研修があれば参加したいですか？

参加したい ・ 参加したくない ・ 次は農業研修をしたい

その理由

地元の方と触れ合い、お話を聞かせていただくことが想像以上に楽しく、勉強になりました。一度お世話になった学生がまた農業研修に伺わせていただくのは贅沢な気がしますが、機会があればやらせていただきたいです。合田さんや皆さんにまたお会いできたら嬉しいです。

<感想文>

ご自由にご記入ください！800字以上を希望します！

研修に行く前のイメージ・行ってからのイメージ、勉強になったこと、得たもの、改善点、これからどう関わりたいか・活かしたいか、等々、どんなことでもOKです。

私は秋田県に行くこと自体、今回が初めてでした。東北の人といえば、忍耐強くて硬派で実直な感じというイメージを抱いていたので、合田さんやその周りの方々の変幻自在さ、探究心の深さに感じ入りました。また、合田さんの気付いた人が動けばいいというスタンスが素敵だな、と思いました。普段東京で過ごしていると、余計なことかもしれないと躊躇してやらず終いになってしまうことがあります。こういう構えでいればいいのかと予想外なことまで勉強になりました。

また、農家さんに対するイメージも裏切られました。

米の農家さんと聞くと、貿易自由化やTPPなどで危機的な状況にあるのではないかと考えていましたが、柔軟な考えを持たれている合田さんや田中さんをはじめ、パーティにいらしていた農家さんや農協の方々の熱意に触れ、大潟村の底力を感じました。それと同時に、私たちの世代が農業を背負ってゆく立場となった時、気力の面でも人数的な勢いの面でも日本の農業は大丈夫なのだろうかと焦りを感じました。

今回、NOPPOの福本さんに声をかけていただき、秋田に行ってみたいという軽い気持ちから研修に参加させていただきましたが、来る前にもっと色々なことを調べて考えてくるべきだったと思いました。村に着いて合田さんや柴田さんから村の話聞き、2泊3日過ごしてみて、大潟村はダイナミックで素敵な村だと感じました。大潟村のことを何も知らずに来たのは、かなりもったいなかったです。

また、これまでちょっとしたドキュメンタリー番組で海外事情に興味を持つことは多いものの、国内という目前で起きていることなのにそこまで魅力を感じていませんでしたが、今回の研修で将来の日本農業のために農業体験を通して大潟村と若者を繋ごうと計画していらっしゃる合田さんや福本さんを見て、これからの農業に少し希望が持てるようになり、少しでも時間のある学生のうちに国内で起きていることを知っていかなければならないことを実感させられました。

私は発展途上国の農業に興味を持っています。途上国の農業開発には、長年培ってきた現地の農業に先進国の技術をうまく取り入れることで、貧困層が貧困から抜け出す可能性を模索しようという考え方が根本にあります。一からすべて先進国の技術を持ち込むのではなく、その地域の気候や慣習に適合させて初めて受け入れられるというものです。技術を与える側と受ける側には少なからず温度差があると思いますが、情熱と冷静さを持って農家さんと若者の共生を目指していらっしゃる合田さんの姿から、勇気をいただきました。

合田さんと大潟村の夢の詰まった施設が、いつか若者に先行きの明るい農業を感じさせ

られる場となることを期待しています。